



2025年7月1日～7月31日分

未来式

川柳のほか短歌や俳句ぶなんもあるよ

金粉短詩系文藝シヨー

復活公園⑤

出張の帰りに酒を飲みまくる

1泊も2泊も一緒に3泊する

助け舟出ないのならぼ入開けろ
赤ん坊泣いてばかりじゃダメですよ

くだらないこと書いたスマホを落としちゃう

7月2日（水曜日）分

出口なのかおトイレなのが教えてよむちゅうにしても僕は行かない

■短歌

かちわりを賣いて戻りたるじろに水

■川柳

日記帳今頃になって出てきました

背が高い人よその次に高い人

暑り空降らないから大丈夫

保証付きの人生一度は読みたい

それでも最後には死んじやうんだよね

ガラス張りの人生みたいなもんですね

中国語喋り出したら止まらない

ネパールの人ぞつこん惚れました

ラブレターばっかり考え方を過ごす
曲がり角曲がったところに君がいる

裏道やサマードレスの花盛り

7月1日（火曜日）分

また道のこと歌うねと君愛い道のことしか歌わぬとわれ笑う
俳句

■川柳

君が君のことだけが満たして頭に地図がない状態なんだ
胃カメラをお変わりくださいありますか？

みじん切り頃張りすぎて粉になり
天溝溝って何が溝ちているのかしらね。

龍宮という言葉聞くのも嫌になる
いつまでもやつていいのかこの人生

どこまでも乗つけてつてくれないかな
一晩中君を抱いてたい気分

そんなことをしてたら朝はフラフラだ
フタタシス踊る夫また発見し

肌の色透き通るほど綺麗です

堂々としてりやいいんだよわんねえ
嘘つきと騙され上手なペアです
だんだんと嫌になってきたら死ぬ

7月4日（金曜日）分

■短歌

本棚と世界の裂け日のその中に
大切なものがみんな落ちてる

■原題

何かと何かの裂け目の中に大切なものが落ちてる感じがするね

■俳句
雨乞いのどの神にするか未だ決めず

■川柳

りんごの皮を剥ぎながら生きてゆくんだ

キヤベツ切りまたキヤベツ切りキヤベツ切り

身長がジャックの豆の木ほどの豆

僕イクラ君はウニだろ引き分けだ
診断の結果次第で飲みまくれ

誰からの電話も取らねえ出張中

送電線だらけの地帯に僕の夢

7月3日（木曜日）分

また道のこと歌うねと君愛い道のことしか歌わぬとわれ笑う
俳句

■俳句
冷房を消しててくれといふ遺言

君だけが君のことだけが満たして頭に地図がない状態なんだ

右側の扉が開いて落ちて行く
この味はお酢が3杯多すぎる

7月9日（水曜日）分

■短歌

鬱陶しい天気なんだなんにも毎日幸せに生きてる僕なのに
なんぼだね そんなんに言つなんやつしょく
7月10日（木曜日）分

■短歌

繕うと嫌になってきたら死ぬ
りんこの皮を剥きながら生きてるんだ
キヤベツ切り またキヤベツ切りキヤベツ切り
7月11日（金曜日）分

3つだけでいいの？ 惜氣ないしと言つなよ
いやほんま そんでものやほんまほんま
なるほどね そんなんに言つなんやつしょく
7月12日（土曜日）分

■短歌

気がつけば三角州の中心に
ポツンと立つてる僕だけがいる

■短歌

気がつけば三角州の中心にポツンと立つて僕だけがいる
■俳句

日射病とは何のことだったのか

■短歌

ネパールの人ぞつこん惚れました
ラブレターばつかり考え日を過ぎず

曲がり角曲がつたところに君がいる
真つ暗の思い出 超えて君に会う

大雨が降り出したからやめどこ
どこまでも乗つけてつてくれないかな

一晩君を抱いてたい気分
そんなことをしてたら朝はフラフラだ

フランス 踊る大また発見し
肌の色 透き通るほど綺麗です

重複に付き追加10句③
トメイトウすりおろしたら赤スープ

癪餅なら初めから言つてくれればいいのによ
さりげなく耳元で囁く人がいる

一晩君を抱いてたい気分
そんなことをしてたら朝はフラフラだ

フランス 踊る大また発見し
肌の色 透き通るほど綺麗です

重複に付き追加10句③
トメイトウすりおろしたら赤スープ

癪餅なら初めから言つてくれればいいのによ
さりげなく耳元で囁く人がいる

一晩君を抱いてたい気分
そんなことをしてたら朝はフラフラだ

フランス 踊る大また発見し
肌の色 透き通るほど綺麗です

重複に付き追加10句③
トメイトウすりおろしたら赤スープ

癪餅なら初めから言つてくれればいいのによ
さりげなく耳元で囁く人がいる

一晩君を抱いてたい気分
そんなことをしてたら朝はフラフラだ

フランス 踊る大また発見し
肌の色 透き通るほど綺麗です

重複に付き追加10句③
トメイトウすりおろしたら赤スープ

癪餅なら初めから言つてくれればいいのによ
さりげなく耳元で囁く人がいる

一晩君を抱いてたい気分
そんなことをしてたら朝はフラフラだ

フランス 踊る大また発見し
肌の色 透き通るほど綺麗です

重複に付き追加10句③
トメイトウすりおろしたら赤スープ

癪餅なら初めから言つてくれればいいのによ
さりげなく耳元で囁く人がいる

一晩君を抱いてたい気分
そんなことをしてたら朝はフラフラだ

フランス 踊る大また発見し
肌の色 透き通るほど綺麗です

重複に付き追加10句③
トメイトウすりおろしたら赤スープ

堂々としてりやいいんだよわかんねえ
嘘つきと騙され上手なペアです
だんだんと嫌になってきたら死ぬ
りんこの皮を剥きながら生きてるんだ
キヤベツ切り またキヤベツ切りキヤベツ切り
■短歌

僕イクラ君は ウニ だろ引き分けだ
診断の結果次第で 飲みまぐれ
誰からの電話も取らねえ 出張中

身長が ジャックの豆の木 ほどの豆
僕イクラ君は ウニ だろ引き分けだ

火を見るより明るかとはじめに こだ火を見見るより明るかに説明しへくれ
笑つちやう 気分はちよつと危険です
泣きたいと思つのなれば 泣きなさい
そうですね いいメンバーに出会つたな

送電線だらけの地帯に僕の夢

7月11日（金曜日）分

■短歌

これならはずつと待つていられまうことなしに静かな思い出の中

■俳句

氷室にて我が体温を確かめる

■短歌

ホステスとのホステスの愛人と
ホスト刺し意氣揚々と引き上げる

例えばゞこまで行けばお前 納得する

チヨコレート類張つて口を確かめる

本日一勝一敗これからだ

予想では 山椒一杯 遂転た

同じような 屋根 ばつかり見え 昇昇つ張り

どんなことでも聞いてくれると思卷いた

か細いなか細い声で話す人
電車の中でカラオケ大会はやめろ

トイレが近いのでトイレに住む

この先のことを考えりや生きてない

同窓会 メンバーは自分で決めるもの

決別だ もう決別だ 決別だ

同僚との同僚の孫娘

火を見るより明るかとはじめに こだ火を見見るより明るかに説明しへくれ

笑つちやう 気分はちよつと危険です

泣きたいと思つのなれば 泣きなさい

そうですね いいメンバーに出会つたな

こんもりとした森の中野糞する

中野サンプラザ 再興 計画を立てて

ついでなら新宿アルタももう一度

■短歌

なんとかね変に自信をつけてるね留学帰りの憂鬱上がる人

■俳句

雷鳥の目を我がものに海を見し

■短歌

そういうは夜中 ルタで待ち合わせたね

こいつなら余裕やある気がしない

途中まで考えらまう癖になる

思い出が全部消えても癖はない

また次に作る友達ペストロン
丹波橋駅前で雨降り出した

どんなにか待っていたかもしません
雨傘の形をしたしつぽ持つ人よ

やいゆそよ初めて文学としてみま
マスターで出ますか 小学生だけど

7月14日（月曜日）分

■短歌
南禅寺も銀閣寺も全部燃やしかやえぞうすれば金閣と横ひと並び

■俳句

ラブホテル玉虫色の恋のあと

いななきが近づいてくる牧場だ

そりや無理だと文句言つやつ 売り飛ばす
この肉がいくらで売れるのかしらねえ
僕のこと いくらで買つてくれますか？

雨降りは晴れた日よりも難むし
サングラスかけたら夜になりました
三船敏郎の歌声が天より響く 悲怖

かいつまよで話してくれよ チャーハンの作り方

焼き鳥のこじなみ誰よりも詳しいぜ

1つだけつたえたいことつある
誰よりも真摯に生きて早く死ぬ

草原のその向こう側ワニがいる

ろくなことない最近の幸せ感

ソノシートで自分の声を聴いていた
大当たり持つて帰つていいのです

アホタレとコテ・ン・パンにやうれたい
陵辱の末に天下を取る男

優秀な人だけピックアップする
鉄橋を渡つた先に何もない

ツバクラメの巣とはほんな巣ですか
水田に落つこち猫になつちまつ

横並びの法則で今カニが勝ち
要素るにスピードだよクレームは

7月15日（火曜日）分

■短歌
真っ暗な世界の中に僕がいて

横の世界にまた君がいて
真っ暗な世界の中に僕がいて
原型

真っ暗な世界の中に僕がいてその横の世界にまた君がいて

悲しいね自慢けにはしゃぐ女たち
うさつたい過去を自慢する（な
どなどと出張なのに雨が降る

自己主張をしたい人にだけ降れ、豪雨
まるなげだとアナウンサーが言つてゐる

7月17日（木曜日）分
■短歌

琵琶湖疏水の記念館まで
ゆつたりとした心持ち俺が行く

■俳句

風景の秘境の道とそのゆくへ

■川柳
しかしそれ人じやなくて AI ね

戦おうとするのなまびいをけ
雨の日の何ひとつなまがしきよ

白線を上からなぞり黒くして

工事中の音を右耳で聞き

さわやかに天高く飛べはぐれ馬

といふふといふ言葉の中身のなま笑え

リスク回避する方法があれば運はない
天の上めがけて爆撃機を放つ

地震なつやうな後に必ずついてくる
どうですかアントニオ猪木りすといだろ

7月18日（金曜日）分

■短歌
疎水べり歩いて行つた日もあつた流れ行つた日もあつたけど

■俳句
銀河なり心につつかえたるものよ

あの店の2階の売春宿の部屋

■川柳
丸き物口より外に出てゆきぬ

部屋の中ぐるぐる回る人は誰？

クリームみたいな石鹼みたいなクリーム食べる

朝毎にぼよんぼよんとするのです

客船の窓から世界眺めてる
オレンジを燃ゆる心の中の型
スピードを上げすぎ流線型になり
ホールドンボールを2つゲットした
大谷くんまんまる顔になりました
マスクして丸顔半々隠してた
茨木のじいなに落とした丸い壺

7月18日（金曜日）分

■短歌

誰かが知らないふつして横を向く
そいつあまりに変なんじやない？

■俳句

涼風の故さえ知らずかつ進み

■川柳

体重が増えすぎ朝も夜も抜く
ビール飲む瞬間だけが命です

英語翻訳しながらお好み焼きの丸
エキスボとその前の日のエキスボと

田と田隣接地帯に我ら住み

ゲーブルで生きてる生きている生きる
ぶたたじもわからぬふうに丸死ぬ
弱冷車になんか乗るものか
地道順さわざハイウェイで載り

お隣は白きつなぎの女の子

7月19日（土曜日）分

■短歌

静かだね 静かすぎる毎日だね
こんなにも 僕大人びている

■俳句

水籠物語して2人ゆく

■川柳

いつの日と失いたるも夏休み
とまあみるといつも女なら直視する

夏休み一緒に行くと言つたのに

夏休み絵日記の呪い降つてへや

今までが休みでそこからが引退？

正確に物言つ人に石を投げ

悠々としているアリは疲れるね

イッたぶりするのだつて疲れるよ

神隠しと神頼みのこと間違えて

頂上でハグしたつもりが熊たつた

7月20日（日曜日）分

■短歌

どうなればこんなに行き着くか少年決して隣りのひとなし

■俳句

充実の1日ならば

壁際を歩いたことの悔やまれず済む

青峰を望みて生誕90年

■川柳

えんて過ぎの神様助けにあらへだらじ

君のこと捕獲したくて走り出す

夕嵐の頃まで一度戻つてゐ

やつぱりお助けに来てよ いいじごる

電話だけでもくださり待つてます

話す朝になつてたゞしもあら

悲しきさまばかになつてたゞある

あと3つ数えてまでに消えてくれ

電車までピテオ画面の犯瀕者

黒縁の太いメガネの女の子

涼夏来るわれら兆の涼米人

■川柳

おつといしむ田舎をもつて生きてゆく

7月21日（月曜日）分

■短歌

7月21日（月曜日）分

■短歌

これまでに聞いたことない音色です
とまあみるといつも女なら直視する

立体の中は何色？なまこ色

指折つて数える種もりが痛すぎた
再度あるからいまから脱いでくれ

注射なう氣を失つた前のこと

流星に引かれて誰かに文句付け

サンクロスサンクロスでハムひこます

これまでに一番すきな香りです
とまあみるといつも女なら直視する

影長し我ら同類にて責めじ

■川柳
絵日記と蚊取り線香の季節です

7月22日（火曜日）分

■俳句

行昌は矢のいんしんとは言つけれど矢は茅やアーマンドで

あの花といひの花全部君の為
えさやじたいいほんじ難はありません

扇風機の回転に合わせて歌います

遊牧亭に惹かれまつて街をゆき
じの先はどんな事難もありはせぬ

虫が逝き大逝き猫逝き君も逝く

後頭部に突き付けられた鏡口
飛び込むよ いかにのさへ だ そひ今だ
ふんは日も 答えを待つていろのす

7月23日（水曜日）分

■短歌

動物園の裏側を歩く日々には遠喫きの声

冷夏など何そんなものそんなもの

■川柳
ふんでもない匂いを嗅いで飛び上がる

ふいまでも 仔猫みたいな人ですね
やへいよば やへいよばな仔猫びきました

脛出して両肘出してカツンガツン
あれまあまあ優先座席に座るバカ

コロンボのピテオボックス見まくつて

年明けの忘年会の招待状

スマートエッグ2つが朝食なんです
この辺でやめじま潮時別れ時

顔面のゆがんだ性格わははは

7月24日（木曜日）分

■短歌
大雨の1日の中始めれば決して減速する事のなし

土用なり用に足らざるもの燒き

2
ちよつと待てペピードだけが腰食なぞ
留年をするからいのと君は言い
ピーチ姫みたいな君のほっぺです
ささんなが咲き始めたら帰ります

ささんなが咲き始めたら帰ります
じりやんじも難になります気持ちいい

流木が流れすぎていたたたた
祖母そぼの祖父はソフトが好物で

松木さんそんに彫れぢや嫌ですよ
歌つにもアーメン食べてからにしませんか

飲み過ぎて顔瓶ビール色
金の卵生牡馬がいたる睡牛

7月25日（金曜日）分

■短歌

どうやつてこじ開けて

ここ入るのか教えてくれる人誰一人なし

■川柳
梅雨明けやさんと咲く花の形

アホとボケ意痴の3重苦だと君
ダットサン持つてた時代が俺の花

喚いても散つしてもダメ掃除して

お掃除は得意なんだと口先で

ねばねばとするもの正体押し示し
プラモモデル作り上げて乗つて帰る

鶏からと僕とどつちが好きですか？

サンタルを履いたら裸足じゃなくなるね

7月26日（土曜日）分

■短歌
大雨の1日の中始めれば決して減速する事のなし

切なくて走り出したくなつちやうね

虫が逝き大逝き猫逝き君も逝く

後頭部に突き付けられた鏡口
飛び込むよ いかにのさへ だ そひ今だ
ふんは日も 答えを待つていろのす

7月23日（水曜日）分

■短歌

動物園の裏側を歩く日々には遠喫きの声

冷夏など何そんるものそんのもの

■川柳
ふんでもない匂いを嗅いで飛び上がる

ふいまでも 仔猫みたいな人ですね
やへいよば やへいよばな仔猫びきました

脛出して両肘出してカツンガツン
あれまあまあ優先座席に座るバカ

コロンボのピテオボックス見まくつて

年明けの忘年会の招待状

スマートエッグ2つが朝食なんです
この辺でやめじま潮時別れ時

顔面のゆがんだ性格わははは

7月24日（木曜日）分

■短歌
大雨の1日の中始めれば決して減速する事のなし

土用なり用に足らざるもの燒き

月下美人方違えして我也咲く

ああ苦行苦行苦行苦行です
これが終わったは天国といつも言ひ
まだ高嶺の上りまで行つたら 夜になる

夜に咲えなればこつちのものですよ
金の卵生牡馬がいたる睡牛

7月25日（金曜日）分

■短歌

ねえジャック何だいジルと猫話す

トムボーイ僕のといひにもゴーラー一つ

目が覚めると牛になつていた

キヤンペーンレディにじやんけんぐ勝つ
電話してその後はひ。み。つ。

7月27日（日曜日）分

■短歌

目的は偉そうに言つやつのこと算がキリ降り走り去りなん

■俳句

胡蝶蘭憧れしものみな逝きて

■川柳

そんなどと駆け出しの人に言ひか
エル空間とが勝手に名前つけてもわからん

元談のよもやな月日が過境してゆく
寝るといふに悪夢が増えてゆく

7月28日（月曜日）分

■短歌
大雨の1日の中始めれば決して減速する事のなし

土用なり用に足らざるもの燒き

■短歌
分厚玉本書き上げた今やれいにはそいつを邊境に仕立て上げるのみ
■俳句

ちよつと待てペピードだけが腰食なぞ
留年をするからいのと君は言い
ピーチ姫みたいな君のほっぺです
ささんなが咲き始めたら帰ります

ささんなが咲き始めたら帰ります
じりやんじも難になります気持ちいい

流木が流れすぎていたたたた
祖母そぼの祖父はソフトが好物で

松木さんそんに彫れぢや嫌ですよ
歌つにもアーメン食べてからにしませんか

飲み過ぎて顔瓶ビール色
金の卵生牡馬がいたる睡牛

7月29日（火曜日）分

■短歌

元談で言つたことが地図になる

■川柳

歴史など學ぶ機会はありません
ゆくゆくはJR 乗つとり社長になる

■俳句

ピンク色のジャケットは少し派手

■川柳

いいからほいで帰れますよ

7月28日（月曜日）分

■短歌

恩師の力強き声を語るから聞く
いつの口いやつと出でがて

■俳句

夏の月はしに引掛かり止まりおり

■川柳

疲れても疲れてもする日課
おつぱいが大きい人から逃げてゆく

親指が長くて靴下みんな破れ

新大阪流れるようすに蕷麦を食べ

歴史的大敗ならぬ覚えてるー

なんでもまたお前を手伝う暇がいる

鳥がなく様子を真似て僕もなく

特急の後から走つてついてゆく

霧ヶ峰登つてみたら ただの峰

7月29日（火曜日）分

■短歌

眺ね上がるの喜びの日々の中ぐいしりつり腰据えてゆく

■俳句

星涼し我の恋路のなれの果

■川柳

ひいちから食べてもいいんですよ 2人

3人から語るかわなんないねこれじゃ

語られてああ語られて消えてゆく

身長が違うことを忘れてた

Stand By Me を歌いながら死体見る

アパートが火事になつたら住めないね

暑すぎてクーラーばかり眺めてる

思考停止の同僚の隙ついてみる

ハゲなればハゲらしく生きる術もある

そんなもの差別主義だと言つてくれ

7月30日（水曜日）分

■短歌

堂々と堂々と行け俺の生恥すかしげもなくまたこれ見ながらでもなく

■俳句

夕凪に乗りたる頃の遡行歌

■川柳

街角に出て勝負するべらんめえ

それならまつう周まど走らうか

どつちが遠くまで飛ぶから競争しよう

やつぱりねそれじやだめだよ素人だ

あの子はね唐揚げのことしか頭にない

ぶつ飛ばし抜かされるまでは我が天下

抜くぐらうにお任せすぐだよするよ

本当なの？嘘なのいつも真面目なの？

両端をゆつくり離してピーンー

7月31日（木曜日）分

■短歌

これまでに書いてきたものが全て消えしまつたらしいと思ったね

■俳句

夏寝常に頭の中に住み

■川柳

100ぐいい笑つての間にすべ済むよ

確かにね人生たつて 110年

100ぐいりで買つてくれますか

100キロを1時間なら余裕だね

なぜ自転 そんなに速くなつちやつた

髪の毛を逆立てながらお弁当

愛妻のために作るよお弁当

たくましい想像力で父母未生
漱石のすじぐく買って家である